

結核を減らすために



下関市の結核の現状



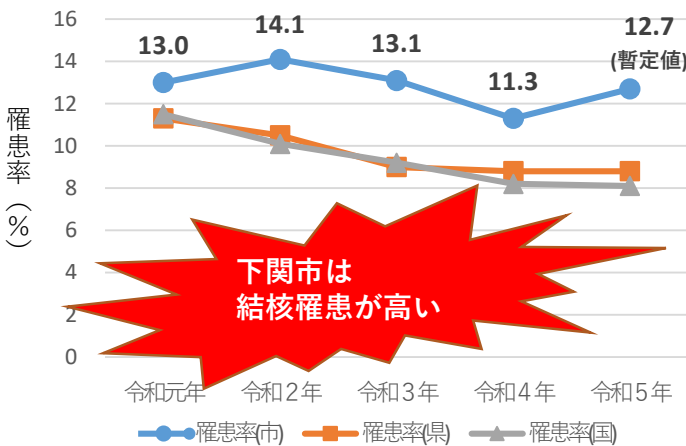
～結核は過去の病ではありません！～

山口県内では年間100人以上、下関市内では年間約40人前後の新規の結核患者が発生しています。下関市における結核罹患率※1および、喀痰塗抹陽性肺結核罹患率※2は全国や山口県と比較すると、高い状況にあります。

(※1 新登録結核患者数 ÷ 人口 × 10万) (※2 喀痰塗抹陽性肺結核患者 ÷ 人口 × 10万)

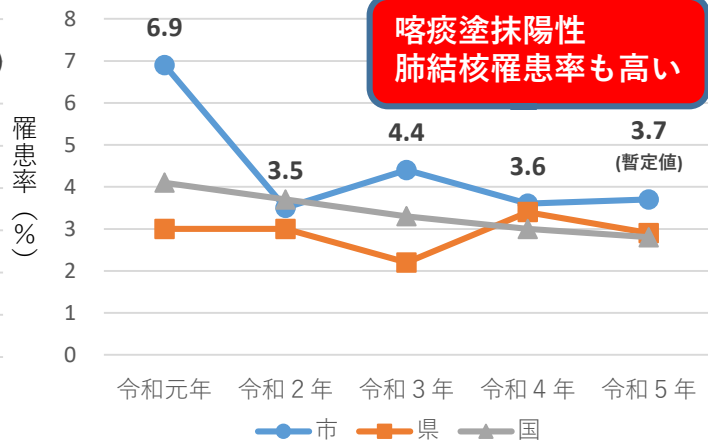
* 喀痰塗抹陽性とは・・・喀痰の塗抹染色検査で陽性と判定されたもの = 排菌者

結核罹患率の年次推移



下関市は結核罹患が高い

喀痰塗抹陽性肺結核罹患率の年次推移

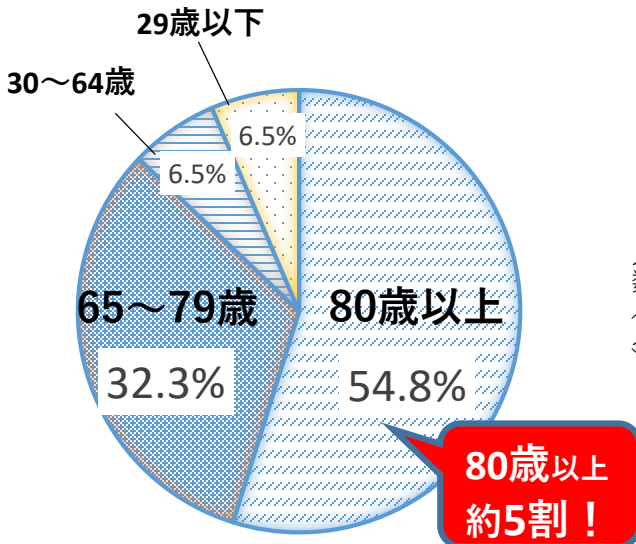


喀痰塗抹陽性肺結核罹患率も高い

～80歳以上に多い結核！～



下関市で令和5年に発生した結核患者の年齢構成は、65歳以上が8割を占めています。特に、80歳以上の高齢者が多く、患者の約半数を占めています。



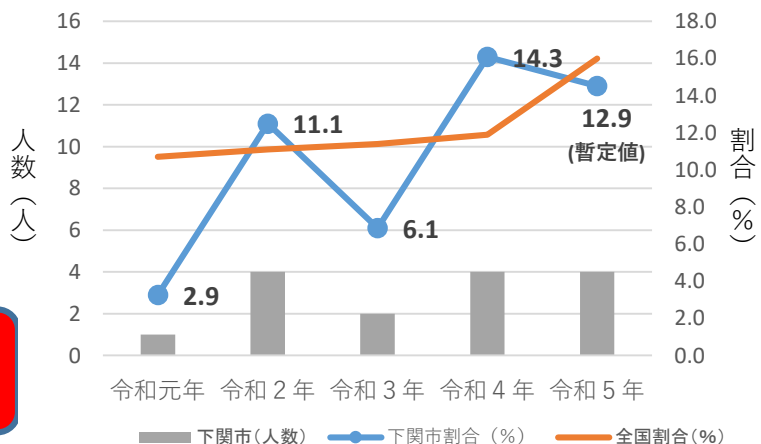
80歳以上約5割！

～外国出生者の結核～



新登録結核患者のうち外国出生者の割合は全国的に増加しており、下関市では、1割を超えています。特に、20～30歳代の新登録結核患者のうち外国出生者の割合が高い状況です。罹患率の高い国の出生者が日本滞在中に発症するケースが見受けられます。

新登録結核患者に占める外国出生者の年次推移





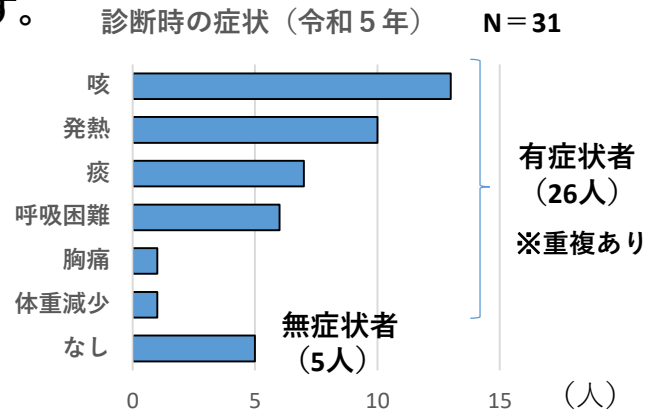
～結核は早期発見が大切！！～

結核は、発見が遅れることで、感染拡大につながる場合があります。
早い段階（排菌前）で結核の発病が発見出来れば、人への感染を防ぐことができます。

①結核を念頭においた診療をお願い致します。

結核を発病すると、咳や痰、発熱など風邪によく似た症状が出ると言われていますが、下関市においても同様の傾向です。

特に、高齢者では症状がはっきり現れない場合も多く、発見が遅れることもあります。
典型的な症状がない場合でも、結核を念頭においた診療をお願い致します。



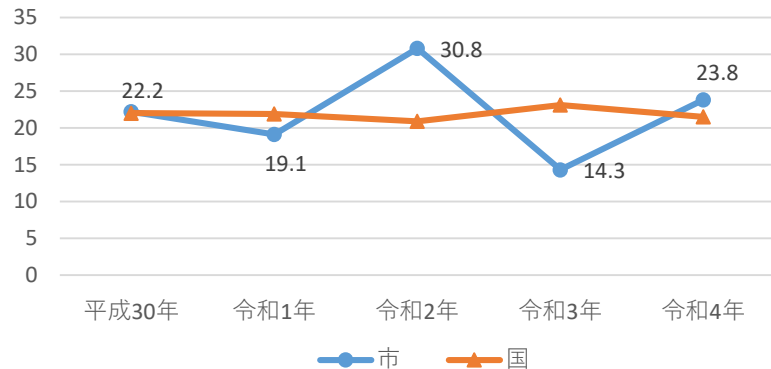
②必要に応じて、菌検査の実施をお願い致します。

令和4年に下関市において結核と診断された方の、初診から結核診断までの期間が1か月以上かかっている方の中には、当初肺炎と診断され、結核の菌検査の実施までに1か月以上要している事例がありました。

画像にて肺に病変が見られた際には、結核の可能性も考慮していただき、必要に応じて、菌検査の実施をお願い致します。

また、培養検査にて結核診断に至ったケースもあるため、菌検査を実施した際には、培養検査の実施も併せてお願い致します。

初診から診断までの期間が1か月以上の者の割合※の年次推移（確定値）



※新登録肺結核有症状者の「初診から診断までの期間が1か月以上の者の割合」は、結核患者の「診断の遅れ」を示す指標です。

③健康診断（胸部X線検査）の受診勧奨をお願い致します。

下関市における令和5年の患者発見方法は、健康診断（胸部X線検査）が全体の約1割程度で、健康診断（胸部X線検査）も結核患者の発見には大切です。

特に65歳以上の方は、感染症法により、年に1回、結核健康診断を受ける必要があります。胸部X線検査を1年以上実施していない高齢者には、健康診断（胸部X線検査）の受診勧奨をお願い致します。

※下関市では、市内在住の40歳以上の方で、検診を受ける機会のない方のために、胸部健康診断を実施しております。



患者発見方法（令和5年） N=31

